

はいぶる



やくよけ祖師 堀之内 妙法寺

〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内 3-48-8

Tel : 03 - 3313 - 6241

Fax : 03 - 3313 - 5007

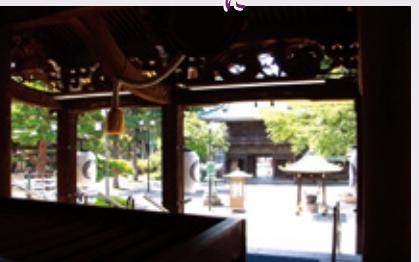
<http://www.yakuyoke.or.jp>

表紙 江戸名勝図会

安政6年(1859) 広重画
杉並区立郷土博物館蔵

【江戸名勝図会】

堀之内妙法寺の日蓮大士の像は
厄除の御影と称して遙に江戸を
離れたりといへども靈験著きゆへに
諸人遠きをいとわざ歩行を運び
渴仰なすもの稻麻の如し



宗歌

日蓮聖人最晩年の弘安五年に詠まれた歌です。

「生涯を振り返ると、ほんとうに様々なことがあった。命を失わんとしたこともしばしばであった。しかし、この身延のお山は、釈尊が法華経を説かれた靈鷲山と同じ。木々を渡る風も、川の流れも皆法華経の教え。今こうして身延の山で弟子、信徒に囲まれ、法華経に生かされる日々を送っている私の心は、実に安穏で豊かである。身も心も晴れ渡つてすがすがしい。」との思いがこの歌に込められています。

この歌は弘田龍太郎氏が作曲。現在、日蓮宗の宗歌となっています。

宗歌　日蓮聖人御詠

立ち渡る

身のうき雲もほれぬ

たゞぬ御宿の鷺の山風

山主隨想

山田日潮



私共妙法寺の法縁、関係寺院に能登本山妙成寺があります。以前、此の誌上でも紹介されていますが、本宗で唯一と言われる七堂伽藍を備えた名刹です。日蓮聖人の最後の弟子となる日像聖人が師より帝都の開教を遺囑され、佐渡靈跡参拝をされて京都へ発つ途中、七尾港への船中にて石動山天平寺座主満蔵法印と出会い、問答となります。法印は日像聖人

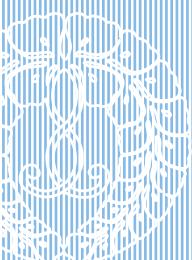
に心から帰依され、弟子となられて日乗の名を授かります。そして師の命により滝谷の地に堂宇を建立、開山に日像聖人、自らは二世となり百十歳の長寿を保ち、良き弟子を得ています。此の妙成寺は「日像弘法最初の靈地」と伝えられ、天正二年（一五七四）に前田利家が能登の領主となり、寺は祈願所に、又、慶長八年（一六〇三）には二代利常の生母、寿福院の菩提所となりました。

私は此の妙成寺の代務住職となり、七月に日乗聖人のご命日、寄合会と称する法要を勤めて参りました。今年の夏は殊の外暑く、又、東京では新型コロナウイルスの感染者が急激に増え、

第七波と言われた時期でしたので、多々心配がありましたが無事奉行出来ました。

現存の十棟は国の重要文化財に指定された名刹ですが、寺・地域の人々にとり、国宝の寺となつて、多くの参詣者が訪れ、土地の活性化にもなつて欲しいという願いがあります。駒野前貫首が施して下さった山内の手入れを更に続けねばなりません。何分、参詣者の人と篤信者の喜捨・淨財で護持しております古い建築の寺ですから、維持が大変で、メンテナンスも限りありません。大聖人の願いが日像聖人にたくされ、その思ひが歴史にも刻まれた寺でもあり、立派な僧侶を多数輩出して

おります。一歩境内に足を踏み入れますと、穏やかで永い歴史の空間に誘ってくれる寺かと思ひます。未だコロナ禍が続き、皆さんが安心して各地へと足を運べる状況ではありませんが、日蓮聖人が法華経・御題目の流布について“法華経を二人、三人、十人、百千萬億人唱え伝うるほどならば、妙覺の須弥山ともなり、大涅槃の大海上なるべし”と仰られております。いずれ妙成寺もその素晴らしさを伝えられ、少しづつでも参詣者を増やし、その歴史を更に刻んで欲しいと思います。



日蓮聖人の手紙（三十五）

東京立正短期大学
立正大学名誉教授 妙揚寺住職

北川前肇

「當に知るべし、觀迦仙・多宝仙・十方分身の諸仙、上行・無邊行等の大菩薩、大梵天王・帝釈・四王等、此の女人をば、景の身にそゝがごとくまほり給ふらん。日本第一の法華經の行者の女人なり。故に、名を一つつけたてまつりて不輕菩薩の義になぞらえん。曰妙聖人等云々。

相州鎌倉より北國佐渡の國、其中間一千余里に及べり。山海はるかにへだて、山は峨峨、海は濤濤。風雨時にしたがふ事なし。山賊・海賊充満せり。すくすく（宿々）、とまりとまり（泊々）、民の心虎のごとし、犬のごとし。現身に三惡道の苦をふるか。其上、当世の亂、世去年より謀叛の者國に充満し、今年二月十一日合戦。其より今五月のすゑ、いまだ世間安穩ならず。而ども一の幼子あり。あづくべき父もたのもしからず。離別すでに久しう。かたがた筆も及ばず。心弁へがたければとぞめ了んぬ」

訳

「（佐渡国を訪問された女人は）たしかなこととして、法華經の虚空会上の釈尊、多宝如来、十方分身のみ仏たち、地涌の菩薩の上行菩薩、無辺行菩薩等の方々、さらに天上界の大梵天王、帝釈天、四天王等の神々が、この女人を、かならず影が身体と添つて守護されるにちがいありません。まさに、あなたは「日本第一の法華經の行者」である女性です。そこで、あなたに信仰のあかしとして、法号をひとつさせ、常不輕菩薩が人々に未來成仏の予言を授けられたことになぞらえましよう。その法名は「日妙聖人」です。

あなたが相模国鎌倉から、訪ねてくださつたこの北國の佐渡国までは、その間一千余里におよびます。山や海が遠くへだたり、山は峨々とそびえ、海は濤々として渦まいています。風雨は時をさだめずに襲います。また道中には山賊や海賊があふれています。宿泊を重ねるところの人々の心は、虎や犬のように恐ろしいものです。この身に、地獄道・餓鬼道・畜生道の三惡道の苦を受けています。その上、今の世は乱れに乱れ、日本国中に去年から北条幕府の政権を略奪しようとする人があふれて、今年（文永九年）二月十一日、一族の合戦（二月騒動・北条時輔の乱）がありました。それからいま五月のすえまで、世間は不安な状態です。しかし、その中にあって、一人の幼な子とともに私を訪問されました。その幼な子には養育するはずの父親はありません。離別されてから久しうなりました。それらのことを思えば、お気のどくで筆を進めることができません。胸がつまつて考えがまとまりませんので、ここでとどめます。ごめんください」

（文永九（一二七二）年五月二十五日・『日妙聖人御書』・昭和定本六四七頁）

解説

日蓮聖人が佐渡流罪となられた翌文永九年、鎌倉から幼な子（乙御前）をつれて、聖人のもとを訪れた一人の女性がありました。文永八年九月の聖人の逮捕、龍口法難、佐渡流罪は、聖人のみならず弟子、信徒への弾圧もありました。そのような中、種々の困難を克服して、佐渡の一谷にあつた聖人のもとを訪問したのです。その堅固な信仰心に、聖人は「日本第一の法華經の行者である女性」と称讃され、「日妙聖人」という法号を贈られているのです。

【最終回】 （全十五話）

日蓮聖人のい生涯

[最終回]

（全十五話）

遠藤教温

大佛次郎「日蓮」より

おさらき じろう
大佛次郎の小説『日蓮』の末尾をご紹介します。



『池上の館は、日蓮が下山して來たと聞いて集まつて來る弟子たちで混雜した。（中略）

九月の二十五日には弟子たちを集めて、「立正安國論」の講義をして聞かせた。

これは自分が懸命に書いたもので自信を持つていたが、今読んで見ると、これを書き上げ

せずにいられなかつた。

庭のすすきの穂を風が揺さぶつていた。しんと、どこまでも晴れ渡つた金色の秋の日である。日蓮は、そつと枕を動かして、

「では、始めよう。私は疲れておるから誰かに読んで貰つて、後から講釈しよう」と、告げた。

日蓮の声はひくかつた。しかし、昔ながらの火のような熱を底にひそめたものであつた。その言葉の内容を、病床の日蓮が心の全幅を傾けて、生きているにちがいなかつた。かつて小町の辻で、石を投げつけられ杖に叩かれながら晴れた日も曇つた日も叫び続けていたように

——言葉の一つ一つに、日蓮の一生が、血が、肉が、そぞぎ込まれてのいるものであつた。

た時分よりはるかに深く広い世界へ自分が来ているのを感じる。その当時、ほんやり感じているだけだったものが、その後の経験で立派に事実として裏書されたことが少なくない。そこで皆にもう一度話して置きたいと思うのだ。今日まで身命を忘れて努めて自分のものにした知識だ。よく聞いて置いて忘れないでくれ。こういう前置きである。そこに居流れていた弟子たちは日蓮の言葉の裏に何があるかを感じて胸をとどろかせながら、日蓮の心持が意味するものを知つて襟を正して肅然と

逆化折伏の戦いを進めてきた一生である。たびたびの迫害に、傷つきながら、かえつて手答えを感じて力を増し幅を加えて大河のように進んできた一生である。

結果は法華經の行者としてこの土に処しての体験となり、法華經の未來万年の広宣疑いなしの確信となつて、今この熱を病んだ。胸の中にある。私の一生がそれを証明する。皆の者は、この自分の生活の中に流れ込んで来て、私と合体した。私の心の幾分かが皆の胸の中にこもつていると信じる。めいめいが私の心の火を分けて持つていてくれるからだ。日蓮は疲れて急に沈黙した。（中略）

「そうだ、俺はここで間もなく死ぬるかも知れぬ。山の中の小さい泉から湧き出て、岩

の多い谷間に揉みぬかれてやつと平野に流れ出た俺という川がここで消えるのだ。しかし

後には、俺というものに流れ込んだお前たちが残る。お前たちが俺に代わってこの川幅を埋め、やがて洋々と大海を作ってくれる。そだといえるか？立派に私は生きている。今よりももつと成長して私は生きている……。

この言葉は、口で語られなくても、人の胸に明るく通じてゐるのはないか？
皆わかっていてくれるな。

日蓮の瞳が語つてゐるのはこれであつた。日昭が水を捧げた。（中略）

十三日の卯の刻になつて鎌倉から池上宗仲夫婦が駆け付けて来て、枕もとに寄つて声を

を広げながら澄みわたつた空の高みへ昇つて行くようであつた。宇宙そのものが一つの音律に鳴り始めたようであつた。その中に日蓮の声が次第に低くなつていくのが感じられたのである。読経が寿量品の中ほどまで来て、その声が消えた。と、同時に、ひろい家の棟が突然に搖るぎ始めた。

地震であった。明るい庭の木々も揺れている。

その中に季節を外れて花を咲かせている桜の木があつて、白い花びらが一二片、静かな宙に散るのが見えた。地震はすぐにおさまつたが、すぐと前よりもいつそう深い沈黙が地に降りた。経を読みつづける声の中に、女たちのむせび泣く声が昇つてきていた。』

かけると、目をあいて、頷いて見せた。

もう何もいわれないのでないかと弟子たちは憂いていた。辰の刻が近くなると、また目をあいて、日昭に、

「皆の者でお経を」

と、しつかりした声でいつて出た。すわやと人々は動搖した。もう涙で頬を濡らしている者はあつた。（中略）

その時おもむろに日蓮の唇が動いた。昔のままのさびのある強い声が聞こえた。それは経を誦し始めたのである。日昭がこれに和せた。莊厳な音の波が、ひろがつて屋の棟に充ち、あけひろげてある庭へひろがつていつた。うちふるい涙に溺れながら、弟子たちはこの声に和せた。その声が一つになつて、見えぬ翼



長い引用になつてしましましたが、いかがでしたか。さすが名作家の筆力、私たちまで宗祖ご臨終の場に居合わせる思いになりました。

さて、弘安五年十月十三日ご入滅された日蓮聖人は、翌十四日にご納棺、夜中にご葬儀がおこなわれました。十六日、荼毘に付されたご遺体は、弟子、信徒らによつて収骨され、「墓を身延に」とのご遺言によつて身延に埋骨されます。

十月二十一日に池上を出発したご一行は、二十五日に身延に到着、翌二十六日に宗祖の御真骨は御廟に納骨安置されました。

また、宗祖亡き後の日蓮教団の護持発展を託された六老僧は、宗祖百ヶ日忌の当日、

宗祖の御廟護持を六老僧中心に毎月交代で担当することと決めました。

現在、日蓮宗で定めている「身延山祖廟輪番給仕」の制度は、六老僧輪番給仕の故事にならつて、全国の日蓮宗寺院や檀信徒を対象に祖廟を守るべく、戦後はじめられたものです。皆さんも機会を得て、身延山祖廟輪番給仕に参加し、身延山久遠寺の御真骨堂に参拝して、まのあたりに宗祖の御真骨を拝していただきたいと思います。

ご入滅から七百五十年たつた今も、宗祖の心は、私たちの心とともに生きているのです。

日蓮聖人の生涯



お祖師様と私

このコーナーでは当山とゆかりのある方々をご紹介します。

第三十五回

妙法寺信徒 勝田 栄子さん



私は大正十三年にこの堀ノ内環七沿いで生まれ育ちました。

環七も東京オリンピック

昭和三十九年開催の時に道路

が広がり青梅街道へ向かう

途中の宗延寺・眞盛寺の処から今二又になつて道幅の狭い道が昔の道路でした。

子供の時はお祖師様の鳩に餌をやりに行つた

り、額堂の絵を見たりして遊んだものです。

十三日・二十三日の縁日には、仁王門の前の廣場と参道は環七の処まで出店が出るので、とても楽しみでした。

お会式はいつもの縁日とは違い、出店も多く、朝から何となく賑やかでした。夜は七時頃から笛や太鼓を叩いてかけ声をかけ、纏を振り、万燈も豆電気が点いたり消えたりし、フワフワと浮いた様にやつて来ます。狭い道で講中の人の行列と見物人が道幅いっぱいになつて、それが十時頃迄続き、一旦万燈も途絶えたので家に戻り床に入つたかと思うと、又太鼓の音が聞こえるので飛び起きて見に行つたもので。

今は交通規制とかで昔の様な光景を見る事が出来なくなり、子供の頃を思い出し懐かしく思います。

毎朝お詣りをさせて頂き、節分の豆入れ、お会式の花作り、おみがきの仕事に御奉仕させて頂き、この年まで元氣でいられる事はお祖師様のおかげと感謝して居ります。

御加護を頂き、ありがとうございます。御礼

申し上げます。

南無妙法蓮華經

めぐり～その二十七～の深い寺院のつながりを「法縁」と呼んでいます。ここでは、堀之内妙

法寺を中心とする「堀之内法縁」に属する寺院を紹介していきます。

まつばがやつ りょうごんざん みょうほうじ

松葉谷 楠巖山 妙法寺

住職 藤田 是光

当山松葉谷楞嚴山妙法寺は建長五年（1253）、

日蓮聖人が千葉県安房より鎌倉に来られ、松葉谷を布教の拠点と定め、小庵を

結ばれた地に建立された寺院です。

当初、御小庵跡地には法華堂が建てられ、法華弘通の道場として守られて



▼法華堂

きましたが、第四世日静上人の時、元弘三年（1333）に鎌倉幕府が倒れると、足利氏の京都転進にあわせ、六条堀川に鎌倉から法華堂を移転させ、大光山本園寺としました。

第五世である日叡上人は、後醍醐天皇の御子大塔宮護良親王の子息、幼名を楞嚴丸といい、中先代の乱の混乱の中、非業の死を遂げた父を弔う為、仏門に入つて妙法坊日叡と名のられました。延文二年（1357）、

日叡上人は日蓮聖人を慕つて松葉谷跡地に堂塔伽藍を再興、自身の幼名である楞嚴丸に因んで楞嚴山妙法寺と称し、開山を日蓮聖人、自らを第五世としました。当山の山



▲仁王門
◀本堂



『法華經啓運抄』など
の幾多の著書を著し、学僧として世に知られました。

江戸時代には、徳川光圀公が創建した水戸三昧堂檀林出身の第三十二世日応上人、三十三世日慈

上人が中興され、

現存の本堂は、肥後藩主細川斉滋公が、亡くなられた息女、こう姫の菩提を弔う為建立されました。年若くして亡くなられた姫が寂しくならないよう、堂内の格天井や小壁、襖には、様々な草花や生き物の絵で彩



総門 ▶



◀川施餓鬼が営まれたことを伝える碑

— 18 —

▼苔の石段

▲色鮮やかな天井絵と襖絵

▶

▶



妙法寺は別名”苔寺”とも呼ばれており、境内が苔で覆われており、特に苔むした石段が有名です。住職オススメの季節は春のお彼岸から六月にかけて。それ以外の季節でも様々な草花が境内を賑わっています。どうぞ鎌倉にお越しの際はお詣りくださいませ。

楞嚴山妙法寺

【所在地】〒248-0007 神奈川県鎌倉市大町4-7-4
電話：0467-22-5813

【交通】

- JR鎌倉駅下車徒歩15分
- 鎌倉駅東口バス停「逗子・緑ヶ丘入口行き」乗車、「名越」バス停下車

— 19 —

第十一代将軍徳川家斉公をはじめ、徳川御三家や大奥の方々、肥後細川家などの武家及び庶民の信仰を集め、江戸への出開帳を度々行いました。また、文化四年（1807）に起こった、千人を超える死者を出した隅田川永代橋崩落事故の慰靈のため、日本最初の川施餓鬼を行いました。

堀之内質問箱

その22

【本堂】

— 20 —

Q 本堂ってなに？

お寺の諸堂の中に位置し、御本尊を安置するお堂です。平安時代中期頃までは、金堂と呼ばれていました。これは、堂内に金色の仏像を安置していたためです。平安時代中期以降は本堂と呼ばれるようになりました。

Q 妙法寺の本堂はいつ建てられたの？

文政二年（一八一九）第十九世玄壽院日健上人の代に建立されました。絢爛な装飾が施された祖師堂とは対照的に、落ち着いた佇まいの本堂です。

建立から二百年近く経ち、柱や長押^{なげし}が湾曲するなど随所に老朽化が目立つてきました」とから、宗祖日蓮大聖人伊豆法難御赦免七五〇年慶讃事業として、平成二十一年十一月から解体改修工事が行われました。一年以上の工期を経て平成二十五年二月二十四日に落慶法要が當まれ、建立当初の趣を残しつつ、後世に伝わる本堂として生まれ変わっています。

Q 正面の額に「三軌堂」^{さんきどう}って書かれているけど、どういう意味ですか？

「三軌」とは、法華經を弘める際の心構えのことだ。「弘經の三軌」とも「衣座室の三軌」ともいいます。



法華經の法師品第十に「是の善男子善女人

ほっしょん

は、如來の室に入り、如來の衣を着、如來の座に座して、爾して乃し四衆の為に廣くこの經を説くべし。如來の室とは、一切衆生の大慈悲心是れなり。如來の衣とは、柔和忍辱の心是れなり。如來の座とは、一切法空是れなり」とあります。

つまり、

- 一、大きな慈しみの心
- 二、困難を耐え忍ぶ心
- 三、煩惱や執着にとらわれない心

を持つて法華經を弘めていきなさいと、お釈迦さまは教えられています。

妙法寺の本堂は、この「三軌」を元として

法華經の受持・弘通をお誓いする場所という意味で「三軌堂」と称しています。本堂正面の金字大額は身延山第七十四世吉川口鑑上人の揮毫によるものです



Q 本堂にお祀りされている 仏像についておしえて

本堂正面の諸仏諸尊像は、日蓮大聖人が文字として顯された大曼荼羅御本尊を木像で表現したものです。

中央最上部には、お題目が書かれた多宝塔を中心には、釈迦牟尼仏と多宝如来が並座され、両脇には、末法に法華經を弘める地涌の菩薩のリーダーである、上行・無辺行・淨行・安立行の四菩薩が居並びます。下段には、慈悲の象徴

である白像に乗る普賢菩薩と智慧の象徴である獅子に乗る文殊師利菩薩、その外側には憤怒相

が特徴的な不動明王・愛染明王がお祀りされています。四隅には、東西南北の四方を守護する持国天・廣目天・增長天・毘沙門天の四天王がお祀りされています。正面前方に御奉安される日蓮大聖人像は、かつて、より多くの方との結縁を目的として行われた出開帳の際に持ち出された祖師像です。

西側祭壇には、清澄にて立教開宗されるお姿を表した、「旭が森のお祖師様」と呼ばれる日蓮大聖人の立像がお祀りされています。両脇

には三十番神がお祀りされています。三十番神とは、日本全国の神様が一ヶ月間三十日交代で法華經を守護するという思想に基づく三十柱の神様です。

東側祭壇には、釈迦牟尼仏

立像と法華經の守護神である、

鬼子母神・毘沙門天・十羅刹女、

七面大明神、大黒福寿尊天が

お祀りされています。

本堂奥は、釈迦堂と呼ばれ、
釈迦牟尼仏座像を中心にお祀り
し、妙法寺開山妙仙院日圓上人
以来歴代山主の御位牌を安置す
るとともに、お檀家様の御位牌
をお預かりしています。



◀ 本堂西側祭壇
▼ 本堂東側祭壇

Q 天井絵についておしえて

大改修の際に「法華草木絵」^{ほっけ そうもくえ}と題し、お釈迦

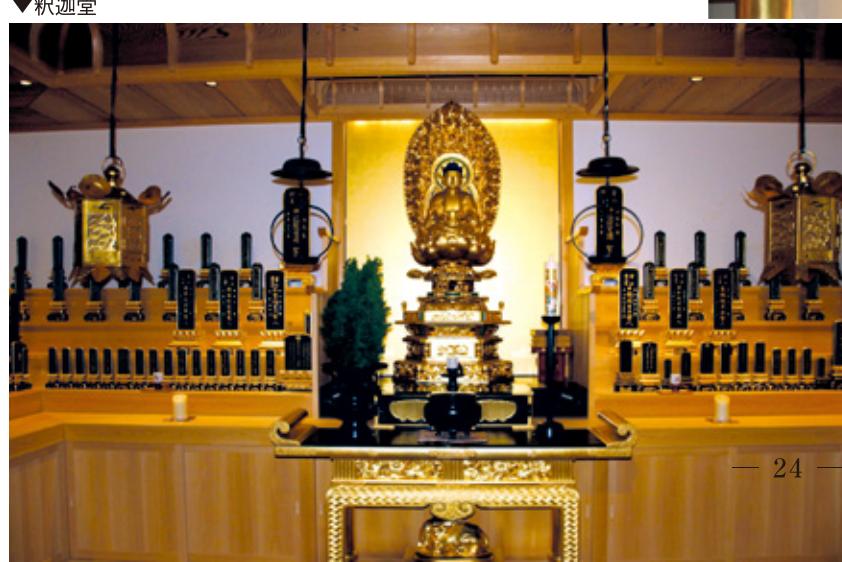
さまと四季を八つのテーマで表した三百二十四枚に本物の玉虫の羽を使った絵がありますので、

ご参拝の折にはぜひ探してみて下さい。

Q 本堂ではどんな法要が営まれるの？

お檀家の皆様の年回法要が営まれる他、四月八日の釈尊降誕会(花まつり)、春秋の彼岸会、夏の施餓鬼会などの年中行事の他、毎月三日(一月は十五日、二月は五日)には諸靈供養、十九日(土日の場合変更あり)には、七面大明神にお参りする七字会が行われています。

また、釈迦堂では、お檀家様以外の供養も行っています。



— 24 —

かわら版

当山の行事やご祈願などをご案内するコーナーです。

第七百四十一遠忌

○宗祖 報恩お会式

本年は日蓮大聖人第七百四十一遠忌に当たります。当山では、次の日程にて報恩お会式を奉行いたします。命を懸けて法華経の教えを弘め、私たちの幸せと世界の平和を願われた日蓮大聖人のご遺徳を偲び、その深いお志を受け継いで行こうという誓いを新たにするとともに報恩感謝の誠を捧げましょう。



▲お会式の様子▶



纏い奉納▼



※いずれの法要もどなたでもご参列頂けます。

十月十三日(木) 宗祖報恩お会式

報恩法要……十時・十三時（祖師堂）

報恩大法要……十九時（祖師堂）

万灯練り供養：十九時（境内）

■十月十二日(水)

お題目道場：十一時・十三時（祖師堂）

○報恩感謝塔婆 一本 三千円也

（申込み切 十月十日）

△日蓮大聖人報恩感謝の塔婆

私たちに法華経・御題目との御縁を結んで下さった日蓮大聖人にご報恩の誠を捧げる報恩感謝塔婆のお申込を承ります。

○二十三夜尊大祭



二十三日の夜、月待ちをすれば願いが叶うとされた「二十三夜信仰」。財運・縁結びを二十三夜様にお願いする大祭です。

■
〈日時〉十月二十三日(日)…十三時

■
〈場所〉祖師堂西内陣

『特別祈願』

(商売繁昌・良縁成就・他)

○
祈願料 五千円也

(お札・お守り・絵馬授与)



○七五三詣

「やくよけのお祖師さま」の前で、お子様・お孫様の健やかな成長をご祈念する「七五三のお祝い」の御祈願をお受けしております。

○
祈願料 五千円也

(お守り・お札・千歳飴・他)

○
記念写真も進呈します。



○お正月壹番開帳

妙法寺独自のお札です。新年最初のお札として元旦午前0時に除厄安全・家内安全等をご祈願して授与いたします。

○
祈願料 五千円也



○節分会

年の節目である立春の前日にお

経を頂戴し

豆まきを行い、厄を除き、幸

多き一年を願う行事です。

■
〈日時〉一月三日(金)
法要……十四時半
豆まき……十五時頃



○常経施主

一年を通して、毎朝除厄安全・家内安全等をご祈願するものです。お札を授与いたします。

○
祈願料 壱萬円也



かわら版

についてのお問い合わせは、
お気軽に寺務所まで。

○年男年女参加費 参萬円也

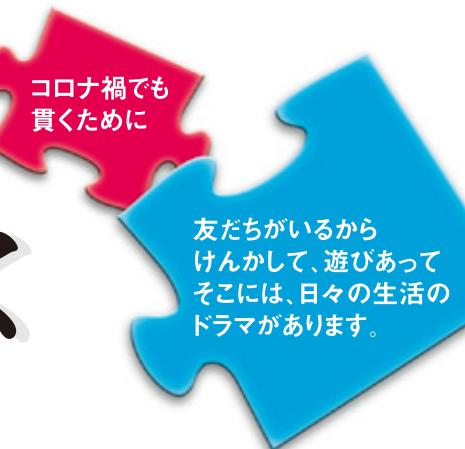
(お札・節分餅・節分豆・記念品沢山)

『電話』03-33313-6241



思いっきり 子どもらしく

東京立正保育園



乳幼児期は人間らしい発達の土台づくりです。

そして、その発達となる基本は、年齢、その時期らしく本気で遊び、学び、育つことです。この2年間いや、3年目の今もコロナ禍でこの土台作りが大きく揺らいでいます。思いっきり話したい！歌いたい！おしゃべりしながら楽しく食事をしたい！友だちと思い切り触れ合いたい！当然の欲求が「密を避けなさい」、「黙食での食事」等制限されました。それでも乳幼児期の子どもたちにとって大切な土台づくりは崩せないと模索し、工夫した2年間でした。3年目も続いています。そんなコロナ禍でも「子ども時代を本気で楽しむには」を工夫し、できることを実践してきました。

5歳児年長組は妙法寺の広い一室をお借りすることが出来、太鼓と民舞（南中そらんぶし）に挑戦し、太鼓の音を全身に響かせました。一人がみんなと呼応しみんなが一人の友だちに共感しあって思いっきり集中することが出来ました。太鼓は子どもたちの憧れの楽器の一つとなりました。今年の5歳児も引き継がれて、勇ましく響き渡らせています。命を育てる栽培活動もしっかり3歳「さつまいも」、4歳「キュウウリ、ナス、トマト」5歳「じゃが芋」、に引き継がれて自分達で育てた野菜、収穫していただく味の格別さを噛み締めています。どんな花が咲き、どのように実がなっていくのかの実体験をしています。そして、「調理活動」へと繋がります。

大自然での散歩においても0歳児より出かけ、「みつけて、ふれて、たしかめて」日々学ぶことの喜びと幸せの中、コロナ禍でもこども時代をおうかしています。

子ども達はどんなことでも自分から主体的に学び合って成長します。大人は子どもたちがおもいっきり自分らしく育っていく手助けをしていくことが大切です。このコロナ禍において特に痛感しています。



東京立正短期大学

Tokyo Rissho Junior College

東京立正短期大学
現代コミュニケーション学科
(共学)

現代コミュニケーション専攻
幼児教育専攻

- ビジネスコース
- 心理コース
- 観光コース

Open Campus

オープンキャンパス 予約制 スケジュール

《2022》
 9月10日(土)
 9月17日(土)
 11月13日(日)
 11月27日(日)
 12月10日(土)

《2023》
 1月28日(土)
 3月11日(土)
 3月21日(火) 祝日

全日10:30～学校紹介
 11:00～テーマ別トーク、
 模擬授業、キャンパス見学ツアー、
 個別相談等を開催予定です。
 内容などが変更になる場合があります
 ので、詳しくはホームページで
 ご確認ください。

ミニオープンキャンパス りったんカフェ♥や
 個別相談会もありますので
 各詳細や最新情報はホームページへ!!

りったん
カフェ

TEL 03-3313-5101 FAX 03-5377-7641

URL <http://www.tokyorissho.ac.jp/>





完全中高一貫プログラムのグランドデザインで
国際社会での活躍を目指した
真のグローバルリーダーを育てています。

まずは、学校説明会・ホームページへ。

2023年度入学者対象 学校説明会日程

中学校	高等学校
2022年 9月10日(土) - 10:00 10月1日(土) - 13:00☆ 10月29日(土) - 10:00○ 11月20日(日) - 9:00 11月27日(日) - 10:00 12月10日(土) - 14:30	2022年 9月24日(土) - 14:30 10月2日(日) - 10:00☆ 10月15日(土) - 14:30 10月29日(土) - 14:30○ 11月19日(土) - 14:30 11月26日(土) - 14:30 12月3日(土) - 14:00
2023年 1月9日(土) - 9:00 1月14日(土) - 14:30	※○は中高同日説明会。☆は紫苑祭(学園祭)を予定しています。

いずれも、会場は本校です。上記日程は変更になる場合がありますので、
 必ず最新の日程をホームページで事前確認の上、お越し下さい。

学校法人 堀之内学園

東京立正 中学校 高等学校

〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内 2-41-15
 TEL 03-3312-1111 FAX 03-3312-1620

URL <http://www.tokyorissho.ed.jp/>



※悪い事をすれば必ず天罰が下る意

教 雄 記

教 誌 編 集 委 員

委 員 長	小 田 教 雄
委 員	嶋 田 教 豊
	吉 田 教 理
	山 田 教 深
	山 形 教 亨
	宇 都 宮 教 倪
	新 井 教 慧
望 月	隆 行
望 月	教 善
石 川	教 義

はりのうら

第57号・令和4年8月発行

方向に進む様に願っています。

最近のニュースを見ると、戦争・自然現象の脅威・国際情勢の複雑化を肌に感じ、ふと脳裏に浮かんだ言葉『天網恢恢 疎にして漏らさず』※を思い出した。

今が末法とたとえられても、一人一人の行動を自覚し、世の中の流れが善き

編 集 後 記

〒166-0013
杉並区堀ノ内 3-48-3 03-3311-0725
【営業時間】和菓子◆10時～17時
手打ち蕎麦◆11時～18時（以後はご予約のみ）
◆火曜日：11時～15時
※いずれも蕎麦がなくなり次第終了
【定休日】和菓子◆火・水曜 [※三のつく日は共に営業]
手打ち蕎麦◆水曜 [致します。（振替休日有）]

〒一六六・〇〇二三
東京都杉並区堀ノ内二一丁三一
F T E L
〇三(三三一六)八八四六
〇三(三三一六)八八二二
良品
安値!
みす平は10年後、20年後の信用を大切にします。
神・仏具のみす平
株式会社 みす平飛天堂
042-334-9981 FAX 042-334-9982
〒183-0045 東京都府中市美好町1丁目30番地の13
http://www.misuhei.co.jp

ご 葬 儀 を ご 想 儀 へ
ムラカミの安心と信頼が皆様の想いをサポートいたします。
ご家族葬から社葬・団体葬までご対応。
1級葬祭ディレクターが責任を持って担当いたします。 1級
365日24時間自社所有の寝台車による速やかなお迎え。
霊安室も完備しております。
葬祭業安心度調査 AAA評価 JECIA格付 ★★★★☆認定
村上葬祭 株式会社 ムラカミ
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-28-2
http://www.murakami-sousai.co.jp
ご葬儀・ご法要はじめ、ご不明な点について、無料でご相談にお応えいたします。
24時間・365日ご対応 ☎ 0120-711-556

中島正石材
墓石・記念碑門扉
有限会社
諸石材工事
マサ